

## 令和4年度第2回教育課程編成委員会 議事録

【日時】令和4年12月5日（月）10:00～11:15

【場所】こころ医療福祉専門学校壱岐校

【委員】壱岐市社会福祉協議会 会長 末永 榮幸  
壱岐市老人ホーム 所長 白川 昇吾  
特別養護老人ホームハッピーヒルズ施設長 永田 信弘  
こころ医療福祉専門学校壱岐校 校長 後藤 久志  
こころ医療福祉専門学校壱岐校 学科長 田島百合子

【事務局】こころ医療福祉専門学校壱岐校 学生部 中原 正和

- 議 題
- 1 令和5年度教育課程の編成について
  - 2 令和4年度合同就職面談会（施設訪問）について
  - 3 国家試験に向けた取組について
  - 4 事業報告並びに今後の予定について（卒業生の進路）
  - 5 今後の課題について（総合的な意見を含む）
  - 6 その他

### 議 事

事務局：それでは議題に沿って第2回教育課程編成委員会を進めさせていただきます。

（1）令和5年度の教育課程について

（配布資料に基づき、現行の教育課程について確認しながら話を進める。）

校 長：平成29年に「目指すべき介護福祉像」の項目が『12項目』から『10項目+高い倫理性の保持』に変更されていることは例年の説明の通りです。養成施設における2年間の授業時間数は1850以上をクリアすることとなっていますが、本校においては1964時間を確保しています。各関連施設には、第1期から第3期までの施設実習をお願いしています。現場でしか体験できない活動を通して、技能や知識のスキルアップにつなげてほしいと願っています。前校長は「傍らに人あり」の精神を大切にされた指導を学校経営の柱にしてありましたが、今年度からは、そのことも踏まえつつ『「地域のために」の精神を大切にし、心のこもった介護を施せる人材の育成』を学校経営の柱として指導を行っています。委員の皆様には、本校の教育課程について、客観的な視点から重点的に指導を行った方がよいと思われる点や具体的な指導法などについてのご意見をいただければと思います。

学科長：近頃、保育園や介護施設における虐待のニュースが伝えられていますが、技能や知識の指導も大切ですが、本校においては、知識・技能の指導は勿論

のこと、介護職として必要な介護観や倫理観について身に付けさせることに重点を置いて指導を行っています。実習においてもこのことについては厳しい目での指導をお願いします。

委員 うちの施設には日本人学生と留学生の両方が実習に来ていますが、人数が少ないことや文化の違いもあるのかもしれませんが、学生同士のコミュニケーションがなかなか取れていないように感じるときがあります。

委員 時代が変わってきて、学校でも施設においても指導を受ける側が、権利ばかりを主張し、指導する側が遠慮しなければならないというような空気があります。虐待については、世間全体に人を敬うことや気を遣うこと、倫理的な意識が希薄になってきている背景があるような気がします。一番指導したいことが指導しにくい世の中になってきています。

学科長 学内においても日本人と留学生と一緒に勉強する難しさも感じる場所があります。なかなか自分の思いを発言しない。お互いに文化の違いがあつて、国別の特徴をつかむのが本当に難しい。同じ国同士では言えることも、言葉のニュアンスが違うので、お互いになかなか本音を伝えられないということがあるようです。指導者としても日本の学生と留学生に同一の指導や教育がしにくいというジレンマを感じることがあります。

委員 留学生のアルバイト生は、素直な対応ができて、一生懸命に頑張っています。以前、バイトの途中で体調不良となりスタッフが寮に送り届けたことがあるのですが、次の日の欠勤の届けがなく心配したことがありました。後で本人に確認したところ、電話番号を知らなかったので連絡できなかったとのことでした。国は違っても、報告・連絡・相談というのはとても大切なことだと思いますので、普段の生活の中でも指導をしていただければと思います。

校長 普段から社会人として大切なことについては指導しているつもりですが、なかなか身に付いていないようです。留学生のほとんどが将来的に日本で働くことになっています。とても大切なことですので、継続して指導をしたいと思います。

委員 社会に出れば、組織の一員として働くことになります。事業所としても、一個人の考えで動くのではなく、組織におけるコンプライアンスや基本を忘れることなく運営に気を付けなければならない。叱咤6割、激励4割ということ念頭に、下からの話もよく聞いてやるというボトムアップにも気を配らなければならない。今は一歩間違えればパワハラやセクハラと言われますから事業所でも気を使います。

校長 そういう時代になっても「不易と流行」という言葉があるように、良いものは残しつつ今の時代に合ったものを取り入れていくということは大切だと思っています。連絡やメール等についても使い分けできるように指導したいものです。今後もお気づき等ありましたら、よろしくをお願いします。

## (2) 令和4年度合同就職面談会（施設訪問）について

学科長： 昨年まで開催していましたが合同就職面談会につきましては、今年度の2年生が5名と少なく、その内2名はすでに就職が決まっているため、残りの3名につきましては昨年度の2年生と一緒に実施をさせていただきました。その関係で、今年度の3名の日本人学生については、各自で就職活動としての施設訪問を行わせています。

校長 次年度は、8名の日本人入学予定者と、2年生に2名の就職未定の者がおりますので、お願いすることになると思っています。

学科長： 今の2年生は国家試験前ということもあるのか、助言をしたり、早めに動きなさいと促したりしてもなかなか動きません。国家試験が終われば動き出すと思います。

校長： 毎年、日本人学生は国家試験100%合格を目標に、模擬試験や対策等を丁寧に行いながら指導を行っていますが、どうしても達成できない年もあります。しかしながら、創設以来、就職率100%を維持できています。日本人学生が、壱岐市内にほぼ全員が就職できていることについては評価も高いように思いますし、若者を少しでも壱岐に残すという点においては本校も貢献できているのではないかと思います。

委員： 壱岐市内での若者の就職を優先的に指導されているということについては、壱岐市の活性化にもつながりますし、とても喜ばしいことだと思います。市内の働き口は都会に比べればかなり限られていますので、介護職のニーズが高いのは壱岐市で就職を考えている者にとってはありがたいと思います。

## (3) 国家試験に向けた取組について

学科長： 昨年度の国家試験は、留学生が1名合格したものの、日本人学生の合格率は50%という大変残念な結果でした。指導する側も、目標の100%を達成するために、昨年度の反省や課題を生かしながら、指導を行っています。今年度から午前中に医療関係、午後に介護関係と昨年と内容が入れ替わっています。受験生が混乱しないように、模擬試験でも試験と同じ形式で実施をしています。学校や業者の模擬試験を10月から今までに5回実施し、90点近く取れている日本人学生もいます。留学生は、今のところ昨年より難しい状況にあります。今年度は76点ぐらいが合格点のボーダーになるのではないかと考えています。遅くまで残って頑張っている学生もいます。コロナが心配ですが、試験が行われる福岡市まで、学科の方で引率します。

委員： 今のコロナ感染の現状は子供からの感染が中心のようです。流行が高止まりしているように思われる点もありますが、この程度で済んでいるのはワクチン接種の効果かもしれません。

校長： 本校は、アルバイト先の関係でほとんどの学生が規定された回数のワクチン接種を受けています。インフルエンザの予防接種も随時受けさせています。

(4) 事業報告並びに今後の予定について (卒業生の進路含む)

※配布した事業報告プリントをもとに説明

校長： 日々、徹底した予防対策を行っていますが、本校においても7月にコロナの罹患者が出ました。留学生の寮が本校と併設であり、数人で部屋を共有しているために、寮内・学校内の感染拡大防止に学生・職員ともにかなり神経を使いました。幸い、複数の罹患者がいませんでしたので、保健室で隔離することができました。また、トイレやシャワーなどは複数ありますので使用場所を指定したり、徹底した消毒を行ったりすることで、他者への感染を防ぐことができました。施設におかれましては、実習の延期等配慮していただき感謝しています。また、オープンキャンパスについても感染対策として2回目は鯨伏支所を借りて行いました。

委員： 校内での感染拡大予防については大変だったと思います。学生も高い意識で予防対策を徹底して行われたことがわかります。

学科長： 卒業生の進路については、現時点で3名の日本人学生がまだ決まっておられません。国家試験が終わりましたら、しっかり活動するように指導します。就職率の100%達成は本校としての使命と考えています。留学生についても、昨年は1名、今年度は2名が市内で就職をしますし、1年生の数名もすでに壱岐市内での就職が決まっています。今年度の卒業生2名は、現在、自動車教習所に通って頑張っています。

委員： 壱岐市内に若者が残ることは大変喜ばしいことです。是非壱岐校の力で壱岐市の若者の人口を一人でも増やせるよう頑張ってもらいたいです。

(5) 今後の課題について (総合的に)

校長： 昨年から、中学校の進路説明会に参加させていただいて、学生と保護者に本校のことや壱岐市の介護の現状等や就職状況等について話をしています。保護者に本校のことを知ってもらう機会があるのは、本当にありがたいです。壱岐市の両高校生も年々減少しています。その中から本校への進学者を募集するのにも限界があります。しかしながら、今年度の受験生の中にも、一旦島外に出たものの、自分の考えていたものと違っていたり、やっぱり壱岐がいいという思いが強くなったりして、改めて本校を受験する学生も増えています。私たちも、保護者や地域の人を良く知っていますので、受け入れたら丁寧に指導するようにしています。次年度は留学生もかなりたくさん入学してくる予定ですので、寮やアルバイト先、送迎の面等、事前に整備をしておく必要があります。

委員： 一旦壱岐を離れて生活すれば、学費は勿論、それ以外のお金もかかりますし、途中でやめるのはもったいないですね。高校を卒業する時点でもう少し自分自身で考えたり他者の意見を聞いたりすることができたらいいと思いますが、ほとんどの学生は島外での進路を考えていますからなかなか難しい

と思います。親も高校生になると子供の意見を尊重しますからね。

校長： 壱岐を離れる前に、もう少し自分の将来の生活について考えてほしいと思います。学校に行くにしても何の資格が取れて、その先どのような仕事に就けるのか、また、その需要はどれくらいあるのかなど考えてほしいです。高校のガイダンスや中学校の進路説明会がそのような機会になることを願っています。今年はガイダンスや説明会の他に、ケーブルテレビやホームページ・インスタグラム等のメディアを利用した宣伝活動も行いましたので、その効果に期待しています。

また、次年度は説明会やガイダンス等に学生の生の声を届けられるように工夫しようと考えています。

委員： 高校生も在学中にたくさんの資格取得や検定に合格しているが、どのような職場でそれを生かせるのか、何の役に立つのか等、わからなかったり疑問に思ったりしている学生が多いのではないのでしょうか。受けさせている学校でもその所をしっかりと指導してもらいたいと思います。壱岐校に入学してくる学生も目的意識を持って入学してくるわけですから、学校でも将来どのような仕事で役に立つのか、どのような時のためにこの勉強をしているのかということをしっかり指導していただきたいです。資格を取得することのメリットは必ずあるのですから、そこを本人が理解できるように指導してほしいと思います。

委員： 高校の先生方も地元でない方も多く、年齢層も幅広いですし卒業後の進路についての価値観もそれぞれ異なると思います。壱岐校としては、これから先、卒業生が少しずつ増えて、卒業後の就職先を知ってもらったり活躍している姿を身近で見ってもらったりする機会が増えれば、学生も保護者も壱岐校の目的や存在価値について理解してもらえるようになると思います。先ほどもあったように壱岐の若者増加の一端を担っていただきたいと思います。

#### (6) その他

※事務局よりその他全体的な意見について確認したが特に意見はなかった。

事務局： 以上をもって令和4年度第2回教育編成委員会を終了いたします。